

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【公開番号】特開2011-52947(P2011-52947A)

【公開日】平成23年3月17日(2011.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2011-011

【出願番号】特願2009-205070(P2009-205070)

【国際特許分類】

F 23 D 14/06 (2006.01)

【F I】

F 23 D 14/06 H

【手続補正書】

【提出日】平成24年4月16日(2012.4.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明によれば、スロート部の下端開口にノズルから燃料ガスを噴射すると、スロート部の上端開口から流出するガス流が板部に当たって径方向に拡げられると同時にスロート部の下端開口から一次空気が吸い込まれる効果、所謂ラジアルベンチュリー効果を生じる。そして、スロート部にて燃焼ガスと一次空気とが混合され、この混合ガスがチャンバを介して炎孔に供給されて燃焼する。そして、お手入れ時にバーナボディからバーナキャップを取り外しても、板部がスロート部を通してノズルが露出することを防止するカバーとして機能し、水滴や異物がスロート部を通してノズル上に落下してノズル詰まりが生じることを防止できる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

上記のようにコンロ用バーナ3をセットした後、ノズル6からスロート部31fに燃料ガスを噴射すると、スロート部31fの上端開口から流出するガス流が板部31hの下面に当たって径方向に拡げられると同時にスロート部31fの下端開口から一次空気が吸い込まれる効果、所謂ラジアルベンチュリー効果を生じる。なお、本実施形態では、スロート部31fをテーパ形状と共に所定の間隔を存して板部31hを設けたことで、スロート部31fがストレート形状であるものと比較してスロート部31fの長さを短くしても、確実にラジアルベンチュリー効果を生じさせることができ、コンロ用バーナ3の更なる小型化が図れる。そして、スロート部31fにて燃焼ガスと一次空気とが混合され、この混合ガスがチャンバ33を介して炎孔に供給されて燃焼する。